

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年 1月10日 第10号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



「夢に向かって」の「夢」とは

校長 鮫島 弘樹

現れたのが美しい富士山であれば、得した気分になるのも分かります。しかし、そもそもどんな状況で眠りに就くと、夢の中にナスが登場するのでしょうか？

「一富士二鷹（たか）三茄子（なすび）」が、正月の初夢で見ると縁起がよいもののベスト3とされています（残念ながら私は、これらの夢を見たことはありません）。

由来は諸説あるようです。一説によると、富士は「不死」や「無事」、鷹は「高い」、つまり「出世」に通じ、茄子は「事を成す」の意味に通じるそうです。

今年度も、進路決定に向かう3年生との面接を、2学期の末に行いました。

「将来の夢は、食品開発に携わることです」「公認心理師になって、悩んでいる人をサポートしたいです」と、明確な夢や目標を掲げ、その実現のために志望校を決めたという生徒が何人もいました。

一方、「まだ決めていませんが、人を笑顔にする職業に就きたいです」「高校で学びながら、自分の進む道を探していきたいです」といった生徒も、面接を行った25人のうち、半数ぐらいでした。

将来の夢に関する質問への答えは、そのどちらであってもよいと私は考えます。

小惑星探査機「はやぶさ2」のプロジェクトマネージャを務めた津田雄一さんについて、12月の全校集会で話しました。

「将来はJAXA（宇宙航空研究開発機構）に入り、探査機を飛ばす仕事に就きたい」と、中高生の頃から夢に描いていた訳で

はない、と津田さんは語っています。

小学生の頃から工作など手仕事が好きで、中高大と進んでからも、その時々で自分が興味のある「ものづくり」などに打ち込んできた結果として、はやぶさ2のプロジェクトにたどり着き、「夢のようなことが実現できた」そうです。

山の頂上を目指す登山家のように、向かうべき目標や夢を明確に持ち、その実現のために努力していくのは、ひとつの理想的な生き方です。

しかし、中学生や高校生の年代で、具体的な夢や目標が定まらないこともあると思います。「あなたの夢は何ですか？」と問われて即答できないことに、焦りを覚える必要はないと思っています。

また、いま頭に描いている夢が、この先変わることも十分あり得ます。

明確な夢がある人も、そうでない人も、最も大切なのは「目の前のやるべきこと」あるいは「いま、興味のあること」に、一生懸命打ち込むことだと思います。

本校の学校教育目標は、「夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校」です。ここで示す「夢」には、具体的な目標としての意味だけでなく、津田さんの言葉「小さな興味を育てていったら、夢のようなことができた」といった意味も含まれているのです。

四中で学ぶ生徒たちには、そのことを理解した上で、主体的に日々の学校生活を送って欲しいと願っています。